

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 12月 10日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0173100314		
法人名	社会福祉法人じねん		
事業所名	グループホーム寿楽		
所在地	〒078-1304 北海道上川郡当麻町4条西2丁目1番10号 (電話) 0166-84-5546		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	北海道札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成20年9月30日	評価確定日	平成20年12月10日

【情報提供票より】 (平成20年8月31日事業所記入)

開設年月日	昭和 <u>平成</u> 16年 2月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	19 人 常勤 7人, 非常勤 12人, 常勤換算 14.4人

## (2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り	
	1階建ての	1階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	23,000 円	その他の経費(月額)	16,000~21,000 円	
敷金	有( 円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	円
	または1日当たり		円	

## (4) 利用者の概要(8月31日現在)

利用者人数	18名	男性	6名	12名
要介護1	5名	要介護2	1名	
要介護3	6名	要介護4	6名	
要介護5	0名	要支援2	0名	
年齢	平均 84.3歳	最低	73歳	最高 94歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	当麻町立診療所、当麻歯科診療所、他
---------	-------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、平成16年、当麻町からの依頼を受け、土地改良区の建物を改修して開設に至った。周囲を田畑に囲まれた自然環境の中にあり、四季折々の風景を楽しめる事業所である。地域の中で暮らしを継続していくという視点に立ち、家族や地域との関わりを重視した事業所運営をしており、地域行事への参加やボランティアの受け入れなど、地域との関わりを大切にしている。「のんびり、ゆっくり」「目線を合わせる」という施設長の考えが、ケアに対する姿勢として職員に浸透している。「家で生活が継続できるように」という視点で、食事作りや外出の機会を多くするなどの配慮をしている。季節を感じられる行事の実施や、畑づくりを通じた生きがいの支援をしている。「仲間と楽しく暮らす、食べたいものを食べて、のびのび暮らす」ことを、実践している事業所である。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価では、職員の異動に関する説明が不足とされたが、利用者に分かりやすく説明したり、家族にも文書で知らせている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価については、全スタッフで取り組んでいる。今回の自己評価においては、重度化への対応、居心地のよい居室の配慮について、サービスの向上に努めていこうと考えている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、町職員、民生委員、利用者家族が参加し、定期的に開催している。会議の内容は、利用状況や、行事等の実施状況についての報告であり、質疑にも応じている。毎月開催される地域ケア会議に出席し、町内の情報を共有している。町から依頼されて事業所を開設した経緯があり、町との連携は密に行っており、協力体制が確立している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用者の体調の変化は、その都度家族に連絡をしている。また、広報誌を発行し、行事の内容や普段の暮らしなどを知らせている。面会時には、利用者の生活状況を伝えるとともに、小遣いの出納、領収書の確認も定期的に行っている。家族会があり、協力的で風通しのよい関係ができていく。苦情受け付け体制や外部への相談窓口を掲示しているとともに、利用者・家族の希望や要望については、ミーティングなどで職員全員に周知し、業務の改善に反映している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	散歩や買い物時等で住民と会話を交わしているほか、近隣住民が事業所に野菜を持ち寄ってくれたり、除雪に協力してくれている。また、市内の行事に参加するとともに、事業所の行事へは住民から協力を得るなど、交流を通じて地域の一員になっている。また、幼稚園児と交流したり、ボランティアの協力を得るなどもしている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「のびのび、にこにこ、暖かく。ゆっくり、いっしょに、楽しく。長寿喜楽、敬老奉仕。」を理念に掲げている。パンフレットの表紙に「地域に根をおろした開かれたグループホームを目指します」と明記しており、地域との関係性を示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所内の各所に理念を掲示し、ミーティングで確認し合っている。介護計画の検討時にも「その人らしく過ごしてもらおう」ことを念頭に話し合っている。職員には、「のんびり、ゆっくり」「目線を合わせる」ことの大切さを周知している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩や買い物時等で住民と会話をしたり、近隣住民が事業所に野菜を持ち寄ったり、除雪の協力をしてくれる。市内の行事に参加するとともに、事業所の行事へは住民の協力を得るなど、交流を通じて地域の一員になっている。幼稚園児との交流やボランティアによる協力もある。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価では、職員の異動に関する説明が不足とされたが、利用者に分かりやすく説明したり、家族にも文書で知らせている。自己評価については、全職員で取り組んでおり、今回の自己評価では、重度化への対応、居心地のよい居室の配慮についてサービスの向上に努めていこうと考えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、町職員、民生委員、利用者家族が参加し、定期的で開催している。会議の内容は、利用状況、行事等の実施状況についての報告であり、質疑にも応じている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月開催される地域ケア会議に出席し、町内の情報を共有している。町から依頼されて事業所を開設した経緯があり、町との連携は密に行っており、協力体制が確立している。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の体調の変化は、その都度家族に連絡している。また、広報誌を発行し、行事の内容や利用者の普段の暮らしぶりなどを知らせている。家族面会時には、利用者の生活状況を伝えるとともに、小遣いの出納や領収書の確認も定期的に行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会があり、協力的で風通しのよい関係ができています。苦情受け体制や外部への相談窓口を掲示しているとともに、利用者・家族の希望や要望については、ミーティングなどで職員全員に周知し、業務の改善に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者に対しては、体操の時間などを活用し、異動の事実を分かりやすく説明している。家族に対しては、文書で説明している。職員や利用者との関係性を考慮しながら、最小限の異動にとどめている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じた育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協議会の外部研修に出席するとともに、研修報告会を行っている。毎月のミーティング後に、内部研修を開催している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者に事業所の行事にも参加してもらい、交流を深めている。また、近郊事業所の職員と意見交換をして、サービスの質の向上に努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前の面接で、利用者の生活状況を十分把握するとともに、馴染みの家具や思い出の品々を持ち込めることを説明している。事業所を見学しながら、少しでも不安を軽減するよう配慮するとともに、時間をかけて慣れてもらうよう努めている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の生活歴や得意なことを把握し、野菜作りや料理の味付けなど、その人らしく生活できるよう支援している。昔はできたが、今はできないこともあり、利用者の自尊心を傷つけないように配慮して対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日ごろの会話・表情・行動など、利用者との関わりの中から、本人の意向を汲み取り、家族と相談しながら介護方法を検討している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の面会時に、介護に対する意向を確認している。職員間で相談しながら介護計画を作成し、家族に計画書を説明し、確認のサインももらっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	2週間毎に経過記録をまとめ、3ヶ月毎にモニタリングを行い、計画を見直している。入院など利用者の状況が変化した時には、その都度計画を見直している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診、買い物、外出や帰宅支援など、必要に応じて行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望する病院に通院することができる。協力医療機関の往診があり、異常時の連絡体制も整っている。専門医への通院は、原則家族で対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族の希望を確認しているとともに、かかりつけ医と相談できる体制を整備している。重度化に伴う意思確認書、終末期に関する対応指針を作成している。	○	今後、利用者の重度化・重症化も想定されるので、事業所としてターミナルケアにどこまで取り組んでいけるかについて検討中であり、継続した取り組みが期待される。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	介護マニュアルを整備しており、排泄介助時などの声かけをするときの言葉に注意したり、プライバシーの配慮をすることを明記している。個人情報保護の取り決めもしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの生活のペースを重要と考え、職員の業務を優先することなく、利用者のペースを守りながら支援している。一応の日課やスケジュールは決めているが、利用者の希望により変更して対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの能力や得意なことを活かして、買い物や調理、後片付けなどの場面で、利用者が活躍できるよう配慮している。食事中は、オルゴールの音色で落ち着ける雰囲気を演出し、会話を交えて、ゆっくりと楽しく食事ができるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員の都合で入浴日等を決めずに、利用者のその日の体調や希望により、いつでも入浴できる体制を整えており、最低週2回は入浴している。家庭浴槽に介護スペースを確保した浴室となっている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は、趣味や生きがいなど、利用者が今まで楽しんできたことを把握して、日々の生活に採り入れている。畑・花壇作り、料理、清掃、カラオケなどの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	町の敬老会や蕎麦祭りなどの地域の行事への参加や、散歩・買い物・ドライブなど、本人の希望を尊重して支援している。日常的に事業所の前庭で日光浴をしたり、倉庫跡を改築した東屋で行事などを楽しんでいる。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることは、職員側の都合のよい介護であり、利用者本位の介護にはならないと考えており、施錠は行っていない。夜間は、防犯上施錠している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練を行っている。向かいのコンビニエンスストアが、避難場所となっている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は、一人ひとりの摂取量と摂取状況を把握している。食器の位置や食事の形状を工夫したり、好みの食べ物を用意している。また、定期的に栄養士に献立を確認してもらっている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音の大きさ、採光、臭いなどに配慮している。また、事業所内は広く、談話コーナーも設置しており、利用者は思い思いの場所で過ごしている。季節の飾り付けも自然な物でまとめている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や仏壇など、利用者が使い慣れた馴染みのあるものを持ちこみ、安心して過ごせるよう、家族に依頼している。私物の少ない居室もあるので、継続して家族に必要性を説明し、馴染みの品等の持参を勧めている。		

※  は、重点項目。